

報告

市民向け啓蒙活動「おくすりカフェ」の初めての実施

鈴木康夫^{1,2)}

¹⁾中部大学生命健康科学部

²⁾生命健康科学研究所ヘルスサイエンスヒルズ部門

1. はじめに

近年、わが国では、高齢化が進み、人々の健康志向が一段と高まっている。そのような背景もあり、自分の健康は、病院やクリニックに頼らず、その前に、自分で監視、管理し、更には増進させようとする人口が確実に増えている。そんな中、2017年1月から新しい税制がスタートした。すなわち、セルフメディケーション税制¹である。これまでの医療費控除は、病気や怪我の人が受けられるものであったが、この制度は、言わば、健康な人でも受けられる医療費控除である。言い換えれば、所得税を少し安くしてでも病気の予防を推進して国民の医療費全体を下げたほうが良いという国家戦略の一つともとれるものである。自分の健康を自分で管理する上で、市販のおくすりに対する知識、理解は欠かせない。しかし、一般の市民にとって、市販のおくすりに、どんなものがあるのか、さらに、いわゆるサプリメントとおくすりの違い、健康食品、トクホ（特定保健用食品）、化粧品、医薬部

外品、栄養機能食品、機能性表示食品などの区別、使い分けは、なかなか難しい。また、高齢化社会では、くすりに依存している人口が急激に増加しており、新作用機構の医薬品も多く出てきている。医療制度も変わってきている。よって、このような時代に対応するため、身体の病症状に応じた専門的なくすりの知識、薬効、飲み方、作用機構、体内での代謝との関連、副作用、薬害などを解りやすく、一般市民に啓蒙することは、生命健康科学研究所の活動として意義深いことと考えられる。そこで、今回、罹患人口が多い様々な病気との関連で「わかりやすく」くすり、およびそれに関連する事項を解説する機会を設け、健康に関する啓蒙を行うことを計画した。題して「おくすりカフェ」「薬剤師によるわかりやすいお薬と健康科学セミナー」「中部大学生命健康科学研究所、ヘルスサイエンスヒルズ部門健康セミナー」を、図1に示すように、質問時間を含め、90分、5回行うこととした。このような、活動は、本学キャン

パス内で行うよりも、こちらから市民に便利なところへ出向いて行うことが必須であるとの考えから、J R 鶴舞駅に至近の「中部大学名古屋キャンパス」の講義室（610）を使用することとした。

おくすりカフェ

「薬剤師によるわかりやすい
お薬と健康科学セミナー」

中部大学生命健康科学研究所
ヘルスサイエンスヒルズ部門市民セミナー

講師：中部大学客員教授
薬剤師（薬学博士） 鈴木康夫

場所：中部大学名古屋キャンパス（鶴舞）講義室(610) JR 鶴舞駅下車徒歩、約 3 分

2019 年 2 月 16 日（土）14:30-16:00

正しく知ろう！お薬の使い方、お薬の種類、子供とお薬、お年寄りとお薬

2019 年 2 月 17 日（日）10:00-11:30

こんな時、こんなお薬：風邪、インフルエンザ、腰痛、便秘、他

2019 年 3 月 2 日（土）14:30-16:00

こんな時、こんなお薬：花粉症、アレルギー、高血圧、糖尿、高脂血症 他

2019 年 3 月 3 日（日）10:00-11:30

免疫、ワクチンってなに？ iPS 細胞ってなに？

2019 年 3 月 30 日（土）14:30-16:00

健康を維持する体内代謝のしくみ、セルフメディケーション税制

聴講無料、どなたでも参加できます。裏面に地図があります。

図1 おくすりカフェのプログラムパンフレット

中部大学ホームページに掲載

2. 結果(中間結果)

現在、1 回目、2019 年 2 月 16 日（土）：正しく知ろう！お薬の使い方、お薬の種類、子供とお薬、お年寄りとお薬、および、2 回目、2019 年 2 月 17 日（日）：こんな時、こんなお薬：風邪、インフルエンザ、腰痛、

便秘、他、が終わった段階であるが、これまでの結果を述べる。開催に先立ち、カラーライド（平均 50 枚/回）、数種類の添付資料を用意した。ライドは、全て、プリントアウトし、終了後も再見、確認できるように配布した。

出席者は、1 回目、14 名、2 回目、9 名であった（図 2）。参加者は、非常に熱心で、メモをとったり、質問も積極的であった。今回は、参加者に際して、事前登録、記名などは行わず、参加しやすい様式を試みた。



図 2 おくすりカフェの会場風景（2019 年 2 月 16 日）

参加者からの質問として、インフルエンザワクチンの有効性、抗インフルエンザ薬の作用機構、子供が発熱した時の緊急対応、お薬を服用する時の時間、お薬の選び方、お薬の保存法、年齢、体重によるお薬の服

用量の相違、お酒を飲んだ後のお薬の服用など多岐に渡り、お薬について、日常的に様々な疑問を持っていることがうかがえた。

今後、第3回目、2019年3月2日（土）：こんな時、こんなお薬：花粉症、アレルギー、高血圧、糖尿、高脂血症、他；第4回目、2019年3月3日（日）：免疫、ワクチンってなに？ iPS細胞ってなに？；第5回目、2019年3月30日（土）：健康を維持する体内代謝のしくみ、セルフメディケーション税制 についての啓蒙を行うことになっている。

3. 考察

今回の「おくすりカフェ」の試みは、下記の点で、特徴がある。1）本学では、おそらく初めてのおくすり、健康および関連事項に関する市民向け啓蒙活動である。2）会場を本学内でなく、市民が参加しやすい公共駅至近の場所で行った。3）西区薬剤師会会長の協力を受けている（後述）などである。これまでの参加者は、10人前後/回である。今後可能であれば、広報や様々な媒体などを活用し、さらに多くの一般市民にこの活動が浸透していくことが望まれる。今回の開催パンフレット（図1）に関しては、本学のホームページへの掲載、会

場付近の調剤薬局および大手ドラッグチェーン店（2店）の薬局、病院（東海記念病院、順和クリニック）などを訪問し、友好的な協力を得て、配置を行った。今回の試みは、継続的に行うことにより、次第に広まっていく可能性が期待できる。また、おくすりカフェの開催に当たり、西区薬剤師会会長（伊藤公一氏、株アマノ医療本部、調剤部・薬剤師）の全面的協力、支援を受けることが出来た。西区薬剤師会としてもこのような地域における啓蒙活動の推進は、非常に望ましいとしている。

今回の「おくすりカフェ」の取り組みは、市民に向けた、市民のためのおくすりと健康に関する啓蒙活動の第一歩ではあるが、今後、これを継続、発展させ、より健康で安全な地域社会の構築に寄与できればと考えている。

4. 引用文献

- 1) セルフメディケーション（自主服薬）推進のためのスイッチ OTC 薬控除（医療費控除の特例）の創設。厚生労働省、
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000124853.html>

Title: 2018 report of the Division of Health Science Hills, Institute of Life and Health Sciences, Chubu University. “First action of

educational activities on medical drugs, health and self-medication for citizens.”

Author(s): Yasuo Suzuki^{1,2}

Address(es): ¹) Department of Biomedical Sciences, College of Life and Health Sciences, and ²) Institute of Life and Health Sciences, Chubu University, 1200 Matsumoto-cho, Kasugai, Aichi 487-8501, Japan

Keywords: Division of Health Science Hills, self-medication, drug, health, citizens.